

# 和歌山県海草郡紀美野町

## 世代間交流を推進する地域拠点の企画・運営 (コミュニティカフェでの実践を通じて)



### 【地域の基礎データ】

人口：8,967人（平成30年9月末現在）

面積：128.34平方キロメートル

高齢化率：41.4%（平成27年1月1日現在）

産業：棕櫚製品製造業、農業 など

観光資源：生石高原、みさと天文台、野上八幡宮 など

### 【活動の基本情報】

参加学生数：10名（1回生：3名、2回生：5名、3回生：2名）

活動期間：平成27年4月～

担当教員：藤井至

### 1. 活動実施の経緯

紀美野町では、平成27年度より、認知症当事者やその家族、地域住民などが気軽に集い、交流することを目的に、認知症カフェ「きみの\*にco cafe（以下、にこカフェ）」を開催している。このカフェは、町内のコミュニティカフェを活用して月に一度実施されるもので、年齢、性別を問わず多様な人々が訪れることで、カフェ参加者の認知症への理解が促進されることが期待された。しかし、少子高齢化が進む同町において、若年層の積極的な参加は困難なため、LIPを活用し、大学生が継続的にカフェに関わる手立てを検討することとした。

### 2. 活動の内容

本プログラムは、にこカフェの取り組みを中心としながらも、同町において貴重な世代間交流の場をいかにして作り上げるか、また、既存の世代間交流の場をいかにして維持・運営していくことができるかについて考えることをねらいとした。学生の主な活動は、①にこカフェの企画・運営への参画、②ふれあい昼食会の企画・運営への参画、③こども食堂（以下、キノコ食堂）の企画・運営への参画、④学童保育への参画とイベント企画である。

### 3. 活動を通じて

今年度からは、従来活動を行っていたにこカフェ、ふれあい昼食会、学童保育にキノコ食堂の活動が加わったこともあり、より活動が充実した年であった。特に、キノコ食堂は、地域が新たにはじめた取り組みであり、地域とともに模索しながら活動を実施してきた。LIPにおいては、既に完成されているプログラムやイベントを継続的に行うケースが多いなか、

新たに作り上げる取り組みは学生にとっても得がたい経験になっていた。今後も、それぞれの活動の支援を行い、同町における世代間交流の場を充実させていくことを目指したい。

#### 4. 成果物など

NIKO  
CAFÉ  
LIP
 

テーマ：世代間交流を推進する地域拠点（コミュニティカフェ）の企画・運営  
 活動地域：和歌山県海草郡紀美野町（吉見地区）  
 2018年度メンバー：1回生3人 2回生4人 3回生2人

にこのカフェLIPって何するの？  
 私たちにこのカフェLIPは、和歌山県紀美野町を起点に、学童やこのcafé等への訪問を通して小さい子供からご年配の方まで幅広い世代間交流を行います。そして認知症という誰もがなりうる症状について認知症サポーター養成講座という講座を受講学習したのち、その経験を活かして子どもたちへ認知症という症状についての学びのサポートをするとともに、子どもたちとご年配の方をイベント等を通じてつなぐような活動をしています。学童やこのcaféの定例的なイベントはもちろんのこと、夏祭りやクリスマス会といった季節の行事や今年度から始まったキノコ食堂（紀美野子ども食堂）などにも参加しています。

---

2018年度の活動

●認知症カフェ「にこのcafé」（二回生 森彩那）

認知症カフェ「にこのcafé」では、紀美野町に住むお年寄りやデイサービスに通ってられる方とお茶を飲みながらお話をします。にこのcaféに来られるお年寄りの方には、少し話しただけでは認知症とはわからないような「認知症予備軍」の方もいれば、自分が今日どこから来たのか忘れてしまう方までいらっしゃいます。私は初めの頃は認知症の方とどう接すれば良いのかわからなかったのですが、聞き手に回りながら気負わずに自分の話したいことを伝えれば興味をもって聞いてくださるとわかりました。お年寄りの方は学生のような若い人と話す機会も少ないので普段とは違う刺激を受けられるという点で少しは認知症予防になっており私たち大学生がお年寄りの皆さんとお話することに意味があることも教えていただきました。にこのカフェの活動を通じて、地域の活性化は人との交流があってこそだと思います。

●ふれあい昼食会（二回生 本田侑子）

にこのcaféでお世話になっている「ふれあい広場紀美野」での新たな活動として、昨年の3月からふれあい昼食会を始めました。普段のにこのcaféに来ている方から近くに住んでいる方まで、たくさんの方がお昼ごはんを食べに来られます。私たちの主な活動は、デザート作り、盛り付け、配膳です。私は特に、いちご大福作りが思い出に残っています。みなさんに「美味しい」と言ってもらえることができて嬉しかったです。また活動後には、「ふれあい広場紀美野」の方々と私たち大学生、紀美野町社会福祉協議会の運営者の方とミーティングを行っています。ミーティングでは今回の反省点や紀美野町の近況、次回の献立を話し合います。運営者側に立ち、少しでも紀美野町の課題を改善できるお手伝いができれば嬉しいです。

●夏祭り（二回生 今清水花奈）

今年の8月にこのカフェにて幼稚園の子どもたちと地域の方々と夏祭りを行いました。私たち大学生が事前に用意した夏まつわる〇×クイズや花火をモチーフとした手形工作、スーパーボールすくいをして遊び、最後は子どもたちからハンドベルの演奏と歌を披露してもらいました。遊びも演奏も全力で取り組む子どもたちの姿がとても可愛らしかったです。そして何より、そんな子どもたちの様子を見て楽しそうに見守られる地域の方々の姿が印象的でした。世代間交流を図ることを主とする本LIPの活動のやりがいを感じた1日になりました。

●認知症サポーター養成講座（二回生 今清水花奈）

ケアマネージャーの方に認知症とはどのような症状なのか、認知症の方とはどのように接したら良いのか等をパワーポイントやビデオを用いてわかりやすくレクチャーしていただきました。受講終了後には認知症サポーターの証であるオレンジリングもいただきました。私自身2回目の受講ではありましたが、ケアマネージャーの方にレクチャーしていただいたのは今回が初めてだったため、貴重な体験になりました。受講ビデオの中に町ぐるみで認知症の方の生活を見守るという内容のものがあり、認知症の方々が当たり前の日常生活を当たり前のように過ごすことができるということがいかに大切であるかを実感しました。

●学童（二回生 上野碧 & 一回生 杉本梓）

学童の活動では紀美野町にある野上小学校の学童保育に参加します。主に屋内で宿題をしたり、なぞなぞや折り紙、工作などをして一緒に遊びます。一方屋外では鬼ごっこやボール遊びをします。子どもたちは皆元気いっぱい、大学生の私たちがへへへになってしまうくらいです。そのような遊びの中でも子どもたちに「認知症とはなにか」というプレゼンを行い、クイズやゲームを通して認知症について知ってもらうという取り組みを行っています。何事にも全力で取り組み、いつも可愛い笑顔で私たちを迎えてくれる子どもたちとの活動はとても充実しています。

●キノコ食堂（一回生 服部希歌）

子ども食堂がリニューアルし、「き」み「の」「こ」ども食堂から名前を取ったキノコ食堂は毎月第2金曜日に紀美野町で開かれ、地域の方から頂いた食材を中心に使った晩御飯を提供しています。私たちは配膳のお手伝いやレクリエーションの企画といった形で参加しています。紀美野町の子どもたちやそのお母さんやお父さん、近所のお年寄りの方などがたくさん集まり、世代間交流の場として、またお母さん同士の情報交換の場として機能していました。高校生のボランティアも多く、お互いに良い刺激となりました。12月に企画したクリスマスツリーづくりでは晩御飯を食べ終わった子どもたちがたくさん参加してくれ、「持って帰れる思い出」として喜んでくれるお母さん方も多く、やりがいを感じました。

